

ぬか。私は我國の國民道德といふ意義を左様な偏つた意味にすることは非常な間違ひである。と考へる、道德には普遍的、一般的の方面と、特殊の歴史的の方面とがあり、すけれども、この兩方を併せ爲して始めて我が國民の道德であると考へる。然るに或る時代の文部大臣が地方官に對して訓示した時、宗教は人を造るものである、人間としての心得を教ふるものである、教育は國民を造るものである、そこに違ひがあるといふ事を申しました、是等が吾輩よりして言へば教育界の誤謬を遺憾なく言ひ現して居るものであると考へる。教育と雖も國民を造ると同時に人たるの光を現すべく導かなければならぬので、國民としては完全であつても人としては不具であるといふ様な者を造つては不都合である、宗教も亦人を造ると同時に國民を造るべきであつて、人としては立派ぢやけれども、國民としては故障を生ずるといふ様な宗教の感化は誤つたる事でありませぬ。さういふ愚論が一國の大臣から地方官に向つて訓示される様であつたから、それから以下に働く學校の先生達はやはりそれと同じく、若しくはそれに定をかけ

た様な思想があると認めても差支ないと思ふ。それではうまゝ行きますまい、その弊が今日に現れて來て居るのであるまいか、近頃思想界を見ても「人間として」といふ方を論ずれば國民の道德を嘲ける様な事になり、又國民道德を語る者は人間としての美點を説く者を危険思想の中に打込む様な事になつて居る。それ故に此頃の新聞を見て「人間」といふ雜誌が出來て、その方は矯激な思想を書いて居る、人間と言へば國を忘れる様な事になり、國民と言へば人間としては通用せぬといふ様な事になつて居る、妙な事が流行して來たものであります。これは容易ならぬ誤解であります。一人一個の學者の誤解ではなくして、我國文教の方針が左様な愚劣な態度であつては先帝の聖旨に背く事大なるのみならず、國家の前途を危うするものであります、今にして覺めなかつたならば禍ひは蕭牆の間より起つて、遂に日本の進運を阻碍するに至ることは火を睹るよりも明かでありませぬ。即ち「人間」といふ雜誌に色々の事を書いて居る如きは、それは彼等が誤つて居るのであるけれども、一方に國民を特殊的の型